

令和元年度第1回竹原市地域公共交通会議

日時：令和元年12月5日（木）14時00～

場所：竹原市役所3階 委員会室

1. 開会

2. 会長及び副会長の選出

- ・（事務局）会長、副会長の選出については、会議設置要綱第5条で委員の互選によりこれを定めることとなっております。委員の皆様から推薦等はありませんでしょうか。
- ・公共交通をご専門とされており、これまでの会議の流れも踏まえて、会長は引き続き、伊藤委員にお願いしてはいかがでしょうか。また、公共交通施策推進の中心となる田所委員に副会長をお願いしてはどうでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

- ・（事務局）それでは引き続き伊藤会長、田所副会長、よろしく申し上げます。

3. 議題

○議案第1号 協議案件 福祉バスの運行について

（事務局より資料に基づき説明）

（質疑応答）

- ・運賃で、65歳未満は路線バスと同額ということだが、年齢確認方法は従前と同じか。
- ・福祉バスには介助スタッフが同行と記載しているが、現在も同乗されているのか。
- ・（事務局）従前と同じです。介助スタッフとして社会福祉協議会の方が同乗されております。
- ・昨年度同様のサービス水準、利用者数を維持することができたと記載があるが、具体的な実数はどうなっているのか。
- ・（事務局）平成30年度の上半期で、1,959人の利用、今年度の上半期で、2,141人の利用がございました。また、昨年度は災害の影響があったと思うが、同程度以上の利用となっております。
- ・コースが利用者の多いような中心部を取り上げているみたいだが、いままでどのような検討をして決められてきたのか。
- ・（事務局）福祉バスが、介護保険制度が始まった平成12年あたりから運行しているものであります。当時は28人乗りのバスで、利用者も多く、大きい幹線道路でないと難しかったという事情がございました。

- ・今回の議案に関して、特に反対のご意見はなかったようですが、この福祉バスの運行についてご異議なしということによろしいか。

(「異議なし」の声あり)

○議案第2号 協議案件 竹原市地域公共交通網形成計画素案について(継続審議)

(事務局より資料に基づき説明)

(質疑応答)

- ・三原竹原線の海岸線はバスが通っているが、県道の三原竹原線は検討しないのか。また、バンブー公園には休みや天気の良い日には、利用している方が多いように思うが、その路線を検討しないのか。
- ・(事務局) いろいろな要望があるということは重々承知しております。運行业者の都合等もございますので、これから検討してまいりたいと考えております。ただ、国道185号の路線があり、競合等もございますので、難しいのではと実感としてはございます。バンブー公園につきましても、ニーズや利用客の見込みを含め、検討してまいりたいと思っております。
- ・数ヶ月に1度三原の病院へ通っているが、必ず病院で竹原の人と何人かお会いする。交通手段を聞くと、家族に送迎をして貰っている方が多い。もしバスが通っていれば、中心部へ数十分でいける訳だから、非常に便利がいいのではないかと考える。竹原の交通網を考える上では、そういったところも今後考えていく必要があると感じているので、ひとつよろしく願います。
- ・新しい道路ができると、当然路線について検討するが、既存の路線と新しい路線が共存共栄可能かなど商業的な視点で考えざるをえないところがあります。新しい路線をつくり、既存の路線を廃止となった場合、皆さんご納得いただけるかということは、この公共交通の会議の中で重要なテーマになろうかと思えます。そういったことも踏まえて考えていく中で、利用客が見込めるということであれば検討していきたい。現時点では、そこまでの判断が社内の検討ではいたっていないのが三原竹原線の現状です。また、バンブー公園の話もありましたが、当然路線バスという点では当初から検討しておりました。土日大変多いということでもあります。バスの路線は一度引いてしまえば、基本的には365日走ります。週末が土日を含めて100日あると仮定すれば、残りの260日程で採算が合うかななどの問題を含めて検討させて頂ければと思います。
- ・各事業で全て検討するという表現が使われているが、具体的に何をするのか。この段階ではつまびらかにできないようなこともあると思うが、もう少し具体的にかけるところは記載して頂かないと、市民の方が読まれても実際に何をするのかが伝わらないのではないかと。特に外出スタイルに呼応した運行方法の見直し・調整と公共交通空白

地・不便地区への交通サービスの提供はある意味緊急の課題であるので、限定的なエリアは書くことはできないにしても、大体こういったあたりで、こういった課題があり、このような手法等を検討します、というようなことを記載していただきたい。そうでないと、なかなかイメージがつかめないのではないかと。また、公共交通を利用して頂くなど、利用者の意識を醸成していこうという取り組みは、過去からバス会社や自治体でできている部分もあると思う。この部分は具体例があるので、それを一番理想的なのは各事業の取り組みで各年度定量的な目標を掲げること。全ては難しいと思うが、可能なものについてはもう少し入れておかれたほうが良いと思う。

- ・(事務局) 具体的な取り組みについて、実行しますというような文言にはさせていただいてないというのが現状です。網形成計画ということで取り組みの方向性を示すということで、現時点においてはこういった書き方になっておりますが、喫緊の課題については、スピード感をもって取り組んでいかないといけないと考えております。再度書き方の検討をさせていただき修正できるものは修正させていただきたい。利用者の意識醸成についても、取り組み事例などを具体的に盛り込んで記載をしていきたいと思っております。
- ・利用者の意識醸成に限らず、他の事業でもすでに取り組まれているものがあれば、入れていただければ、もっと具体的になるのではないかと思います。また、網計画自体の期間が5年間ということで、現段階では具体的に表記をすることが好ましくないということでも、場合によって新たに詳しく書き込んでいき、より推進を強めていくというようなことでの変更もできます。そういったことも踏まえ、5年後にこの計画をたて、すごくいい成果が出たということを目指していただければと思います。
- ・38ページに公共交通に関わる経費という形で福祉バス等の委託料が掲載されているが、合計の値で平成28年から平成29年に約140万増えている。このイメージを教えてください。例えば福祉バスだと、前年度と比べたら若干減額になっているが、路線バス補助金は約190万増えている。これは赤字幅が増大したから、赤字補填の補助金が増大したものなのか。事業者も非常に厳しいなかやっていたらいるが、その事業者のために、収支の赤字部分をちょうど赤字補填されている補助委託料という解釈でよろしいでしょうか。
- ・(事務局) 路線バスの補助金につきましては、経常費用から経常収入を引いたものに対し、国や県の補助金を引いた内の赤字補填という形になります。ですので、この増額につきましては赤字が増えたという形になります。
- ・指標、現況値、目標値を作られているが、将来と記載されている。将来と言うのは、計画の1年目なのか5年目なのかわからないので、明記してはいかがでしょうか。
- ・(事務局) 最終年度を示しています。5年後にこの目標値を目指すということです。そのように修正させていただきます。
- ・先ほど、委託料が増加している、増加しているのは運営が悪化しているとのこと。い

まから竹原市の人口が減っていく中で、目標が現状維持、増加というのが可能なのか。先ほど他の委員さんが言われたように、これをこういう風にやるから現状維持ができるなど、具体的なものが必要かと思う。机上論ではいくらでも書けるものだと思います。

- ・(事務局) おっしゃられるとおり、これから人口が減っていくなかで、基本的には利用者を増やしていかないといけないというのが大前提にあると思います。例えば車を使われているような方も、公共交通を使っていただくという風に転換していかないといけない。当然人口が減ると、利用客が減りますので、そういう取り組みは非常に大事だと考えます。その中で外出スタイルに呼応した運行方法の見直し・調整、公共交通空白地・不便地区への交通サービスの提供を特にスピード感をもってやらないといけないと認識しておりますが、先ほど説明させていただいたように既存の交通モードだけではなく、市民が利用しやすい交通モードを検討し、利用客を増やすなどが必要で、その中では当然地域の皆様にも、車を使われている方がなるべく公共交通を使っていただくというような、意識を変えていただく取り組みもセットでやっていく必要があるという風に認識しております。そういった取り組みについて、書き込めるところは具体的に書き込んでいきたいと思えます。
- ・目標の評価指標の話になるが、今後市が主体になって事業をしたり支援をしたりするなかで、やはり市の財政が必要になり、公的なお金をかけて公共交通を支援していくことをしなければならぬことを考えると、財政の制約の話、あるいは公的なお金を効果的に利用できているかという視点でも評価をしたほうがいいのではないかと思います。その点について何か考えられておりますでしょうか。これはすぐに答えてもらわなくても結構ですが、きちんと考えておかないといけない話だと思います。財政的に制約がある中でなにを優先して考えないといけないのか、そういうことも現実問題としてはあると思うので、何か基準を持ち、こういったことをやっていくというのがあったほうが、事務局、市役所からしても説明だとか、決めやすいというのがあると思いますので、検討課題として持っていただけたらと思います。
- ・他の市町の計画を見ると、交通に不便なエリアを調べられたりしてというのがありますが、竹原市では特筆して全く移動手段がない、一定の居住のあるようなエリアはあまり無いという認識でよろしいでしょうか。
- ・(事務局) タクシーを含めて公共交通という捉え方をすれば、概ねカバーできていると思いますが、福祉バスや路線バス、乗りあいタクシー、福祉タクシーで考えると、公共交通空白地というのはございます。福祉バスも週1便だったり、空白地ではないが、利便性には問題があるような地域は多々あるという認識です。
- ・いろいろとご意見頂いたところですけども、特に考えないといけないところは、具体策のところ、骨組みはいろいろと書いているけど、実際に竹原でどういうことをやるのか見えにくいのではないかと指摘、あとは目標値の設定自体の考え方のところ

のご指摘が大きいところとしましたので、その点も踏まえて修正して貰ったうえで、今後パブコメにて市民の皆さんに素案を見ていただき、意見を頂くというような流れにさせて貰えればと思いますけれども、そういう進め方でよろしいでしょうか。

- ・（意見なし）
- ・そうしましたら、パブコメに向けてもう少し修正していただいてということにさせていただきます。これで用意していた議題は終了します。

○その他

- ・（芸陽バスから報告：令和元年12月20日をもってかんぼ線の廃止。かんぼセンターのバス停はなくなるが、300mの距離にバス停があるため、近隣の住民及び他の施設の宿泊客について大幅に利便性が損なわれることはないと判断。）

以上